

祝辞 設立50周年に寄せて



一般財団法人川崎市保育会創立50周年おめでとうございます。

昭和34年に設立された川崎市私立保育園連盟を経て、昭和44年に財団法人川崎市保育会が発足してから、今年で50年という節目の年を迎えられました。心からお祝い申し上げるとともに、戦後の苦しい時期を乗り越えられ、長きにわたり質の高い保育を提供され、さらなる飛躍に向け、今もなお、日々の研鑽に励んでおられる皆様に敬意を表する次第であります。

また、日頃から、川崎市社会福祉協議会の事業に御理解・御協力を賜り誠にありがとうございます。

ところで、昭和44年に産声を上げられ、川崎市保育会が財団法人としての歩みを始められた時代は、前々年の昭和42年に我が国の人口が1億人を超え、昭和45年にはアジアで初となる万国博覧会が大阪で開催されるなど、時あたかも高度経済成長の真っただ中にあり、高速道路網の整備や耐久消費財が目覚ましく普及するなど、豊かさが目に見える形で実感できる時代でありました。

昭和から平成にかけては、オイルショックによる経済成長の失速、バブル景気に踊った日々、その後のリーマンショックに端を発する不況など、社会経済情勢は目まぐるしい変化を見せ、また、近年の核家族化や女性の社会参加、就労機会の増加は、家庭環境の変化をもたらし、少子化にも関わらず、保育園の利用者の急激な増加につながっています。特に川崎市のような都市部では、今や仕事と子育てを両立する夫婦共働きの家庭が一般的になりました。

このように50年の歴史を振り返りますと、私たちを取り巻く社会経済情勢や家庭環境は様々な変化を見せてきましたが、川崎市保育会におかれましては、一貫して揺らぐことなく、多様な保育ニーズに応え、地域全体の福祉の発展と子どもたちの健全な発育のため、社会的使命を果たすべく、御尽力されてこられました。

質量共に増大する保育ニーズに対し、子どもたちの健やかな成長を願い、期待に応えんとの思いは、昭和、平成、令和と時代は移り替わっても、川崎市保育会のアイデンティティとして、諸先輩方から、理事長様をはじめとする保育会の皆様方へとしっかりと受け継がれているものと思います。

結びとなりますが、未来の社会を担う子どもたちのため、新たな50年に向け、川崎市保育会がますます飛躍されることを祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

川崎市社会福祉協議会 会長

佐藤忠次